

「終わった人」が朗読劇に！
中井貴一&キムラ緑子のコンビで。

この夏、内館牧子原作の『終わった人』（講談社文庫）が中井貴一、キムラ緑子の朗読劇に生まれ変わることがわかった。

『終わった人』は内館牧子原作の高齢者四部作の第一弾として2015年に刊行。

その後『すぐ死ぬんだから』『今度生まれたら』そして『老害の人』と続いた。

作・演出は、笹部博司。「朗読」ではなく「リーディングドラマ」（読む行為で言葉を躍動させ、舞台上に立体的なドラマを作り出す）と名付けた、これまでにない舞台に期待が寄せられている。

先日都内で、出演の中井貴一、キムラ緑子、そして原作の内館牧子の3名による取材会が開かれた。



昭和40年代の結婚至上主義の時代に13年間過ごしたOL生活からヒントを得たという内館は「当時、定年退職者を何人も見送ったけれど、皆が『もう通勤ラッシュに乗らなくてむ』

『これからはのんびり妻と温泉にでも』『孫と遊ぶ』などと発言していた。しかしみんな負け惜しみだったんだなあと…。今だからこそ、そういわざるを得なかったのだとわかる。まだまだ終わりにたくないのに、終わらされていた。そんな人たちの恨みをはらすために書いた小説です」とタイトルを先に思いついたことを明かした。中井貴一が「僕と緑子さんは同級生。年齢は言いませんが(笑)、そろそろ『終わりを告げられた友人』から話を聞く年代。僕たち俳優の仕事は終わるかどうかは、自分で決めるしかありませんが」と言えば、キムラ緑子は「私は自分でも終わってるのか、始まっているのかまったくわからない。まだもがき苦しんでいます。でもちょっとずつ終わってるかなあ。いろんなことが少しずつできなくなってるし…」と嘆く。そんな二人に内館は「60代は全然終わってないですよ。振り向けばまだ50代。なぐさめじゃなくて体力も気力もまだまだあります」と励ました。



今回の舞台は朗読劇。中井とキムラ二人だけで、主人公の田代壮介と妻の千草をはじめ、すべての登場人物を演じ分ける。この日の二人の衣装は偶然モトーンでコーディネート。早くも息のあったところを見せていたが、実は中井からキムラへの熱烈なラブコールで今回のキャスティングが実現したという。

「僕は、ドラマなどのお話をいただいたときに『妻役はどなたがいいですか？』と聞かれると必ず『キムラ緑子さん』と答えています。彼女はマインドを七変化できる人。違う人間を演じる時、衣装が変わったり見た目を変えたり声色を変えるのも役作りですが、一番大事なことはマインドを変えることなんです。彼女はそのマインドの変え方が絶妙！仕事をするたびに毎回別の人格が出てくるので、楽しくてしかたがないんです」と絶賛。「今回の朗読劇では、一人で数役をこなさないといけない。台本を読んで、これはもう緑子さんしかいないと思いましたね。声を変化させるのではなく、気持ちを瞬時に変化させられるのは彼女しかいません。いつものオファーならスケジュールが合わないとか言われると、あ、ダメならしいです、と引くのですが、今回はもうかなり強めにお願いしました」と続けた中井が、「だからこの舞台の成功はひとえに緑子さんにかかっていると思ってください！」と断言して、「え～～、もうひど～い！」とキムラが叫ぶ一幕も。

内館は「本当に中井さんとキムラさんが演じてくださるの？ってうれしかったですよ。結婚って男と女が長い間一緒にいて、慣れていく過程でふてふてしくなったり、身勝手になったり、夫側にも妻側にもそれぞれ変化があって夫婦の形が変わっていく。この二人ならそのへんがいやになるほど伝わるでしょうね」と話した。

「終わった人」のイメージを問われた中井は「人は2度死ぬっていいですよ、肉体がなくなる時と、みんなの記憶から消える時。それと同じように、人は2度終わる。会社を定年になるなど実務的に終わった時と、自分の夢やいろいろな欲がなくなって終わった時」と話し、「男性からの『終わった人』だけじゃなくて、女性からの『終わった人』も内館さんに書いていただきたい」とリクエストを送った。

小説を書いている時は、映画になったり舞台になったりすることはまったく考えていなかったという内館は、「この舞台はぜひご夫婦で観にきてほしい」という。中井は『『終わった人』というタイトルを見て観に来た20代がいたら、僕は舞台の上から一言褒めたい」と話し、「昔は手で洗濯していたけれど今は全自動、昔はブラウン管の白黒テレビだったけれど今はハイビジョンカラー。このぐらいの文明の進化がちょうどいいです。この変化を共に経験してきた人にこの舞台をぜひ観てほしい」とした。多くの登場人物を演じ分けることになるキムラは、「いろいろな人が、どこかに焦点をあてて観ることができる舞台です。どこを拾って、どんな感想を持ったかを、みなさんに聞いてみたい。たくさんの方に観てほしい」と呼びかけた。



取材・文CAMEYO 吉田明美 撮影 山本倫子 司会 国本佳江
ヘアメイク 藤井俊二(中井貴一) 笹浦洋子(キムラ緑子)
スタイリング オフィス・ドゥーエ 松田綾子(キムラ緑子)
リング/ケイテン(ラ パール ドリエント 078-291-5088)